



一人でも多くの命を助けるために DMATの活動について



↑当院のDMATメンバー

DMATとは

災害医療派遣チーム「Disaster Medical Assistance Team」の頭文字をとってDMATと呼ばれています。DMATは、大規模な自然災害や航空機・列車事故といった集団災害時に迅速に現場に駆けつけ救急処置を行います。また広域医療搬送※に携わったり、被災地内の病院に対する医療支援も行います。

※重症の負傷者を被災地外に搬出して根本治療を行うことです。

発足のきっかけ

DMAT発足のきっかけは平成7年1月17日「阪神・淡路大震災」です。阪神・淡路大震災では、初期医療体制の遅れが考えられ、平時の救急

医療レベルの医療が提供されなければ、救命できたと考えられる「避けられた災害死」が500名程存在した可能性があります。

この阪神・淡路大震災で災害医療について多くの課題が浮き彫りとなり、この教訓を生かし、各行政機関・消防・警察・自衛隊と連携しながら救助活動と並行し、医師が災害現場で医療を行う必要性が認識されるようになりました。その後厚生労働省により、災害医療派遣チーム、日本DMATが平成17年4月に発足しました。

構成

DMATの研修を受けたメンバー4〜5名で1チームを編成します。このチー

ムは、医師・看護師・業務調整員（医師・看護師以外の医療職及び事務職員）で構成されています。医師・看護師には救命救急の知識のみならず現場の状況を短時間に把握し、実際にどのような活動を行うかを判断するための経験値が必要とされます。業務調整員は、現場において他のDMAT・救急・消防・警察・自衛隊や自治体との連携を綿密に行うための通信手段の確立や、情報交換などの重要な任務を担っています。

当院のDMATは医師6名、看護師7名、業務調整員6名の計19名が登録され、実際の出勤に備え、院内・院外で行われる災害訓練等に参加しています。

当院の取り組み

当院では、毎年災害訓練を行っています。DMATにはこの災害訓練の企画・立案などの役割もあります。訓練の内容は毎年変えており、今回は過去2回の災害訓練をご紹介します。

【平成27年度】震度7の宇都宮市直下型地震が起きた想定で、院内被害状況確認及び多数傷病者に対する受け入れの訓練



模擬患者へ傷のメイクをしている様子



乳児の治療をしている様子



仮設病床

【平成26年度】宇都宮駅前で化学兵器のサリンが撒かれ、傷病者の搬送及び、汚染物質の除去後に治療を行う訓練



模擬傷病者の体を洗浄している様子



仮設の救急外来



訓練に参加したDMATメンバー

【今年度参加する院外の主な訓練】

| | |
|---|---|
| ●平成27年度大規模地震時医療活動訓練 *内閣府主催 | 首都直下地震を想定し、被災地から航空機により搬送される重症患者を受け入れ、SCU（広域搬送拠点臨時医療施設）内で診療及びトリアージを行った後、救急車により災害拠点病院に搬送する訓練 |
| ●高速道路での危険物運搬車両が関係する重大事故を想定した合同訓練 *栃木県高速道路危険物運搬車両事故防止等対策協議会主催 | 宇都宮市内の東北自動車道より線において、「軽油」を積載したトラックとマイクロバス、さらに普通乗用車1台が関係する交通事故が発生し多数負傷者が発生した想定で、現場での安定化処置を行い搬送支援を行う訓練 |
| ●さくら市防災訓練（多数傷病者事故救助救護訓練） *さくら市主催 | さくら市桜野地内交差点において、乗用車3台による衝突事故により、多数の傷病者が発生したとの想定で、負傷者の救出訓練、応急救護所での応急処置、トリアージ、及び負傷程度に応じた医療機関への搬送する訓練 |



各種訓練を通じて能力を向上させるとともに、常に出勤できるように体制を維持しています。また、遠隔地への出勤も考慮し、移動手段や装備品の検討も行っています。



DMATリーダー
栃木県災害医療コーディネーター
救急科 主任診療科長

かせ けんいち
加瀬 建一 先生

Q. なぜDMATに入ったのですか？

A. 災害医療は救急医療の延長では無く、災害によって平時の医療体制が維持できない中で行われる、救命を含めた医療です。これを体験したのが東日本大震災でした。その晩に当院DMATチームを送り出した後に、医療人としてこれから何をすべきかと考え、自らもDMAT隊員となることを決心しました。

Q. DMATでの役割は？

A. 直接災害現場での活動もありますが、統括DMATとして各DMATチームの現場リーダーであり、また栃木県災害医療コーディネーターとして自治体災害対策本部での助言及び支援活動です。災害時に必要とされる医療の供給のためには、各病院・自治体・消防・警察等との相互連携が不可欠です。この医療の確立を支えるのがDMATの活動であると考えています。

Q. 今後の意気込みをどうぞ

A. 済生会宇都宮病院は栃木県の基幹災害拠点病院です。それゆえDMATチーム以外の職員も災害時には迅速且つ適切な活動が要求されます。このために日常からの地道な災害に対する訓練等の院内活動をより進めたいと思います。